

平成 28 年度 企画展

鬪雞神社の文化財



主 催：田辺市立田辺歴史民俗資料館

会 期：平成 29 年 1 月 28 日（土）～3 月 26 日（日）

会 場：田辺市文化交流センター「たなべる」2 階 歴史民俗資料館 企画展示室

入場者：1062 名

○会場の様子○

【Ⅰ 鬪雞神社以前】



鬪雞神社は、社伝や『紀伊続風土記』に記録が残されていますが、古代・中世の歴史はよくわかっていません。

考古学的な観点より、鬪雞神社周辺では、弥生時代以降砂丘上に墳墓が営まれ、鎌倉時代には、神社背後の仮庵山に経塚が造営されていたことが分かっています。

【Ⅱ 鬪雞神社の文化財】

中世の歴史がよくわかっていない鬪雞神社ですが、中世の獅子・狛犬や那智参詣曼荼羅などの美術品が残されています。



また、江戸時代には、田辺領主安藤家や田辺城下町の町衆からの寄進、奉納品が残されています。

明治以降には、近世田辺の記録『万代記』『田辺町大帳』『御用留』などの文書典籍も収蔵されています。



【Ⅲ 近世鬪雞神社の社殿造営】



鬪雞神社は、明応4年(1495)の「田辺兵乱」、天正13年(1585)豊臣秀吉の紀州攻めによる「田辺大乱」により大きな打撃を被ったと考えられています。

江戸時代になり田辺領主となった安藤家は、鬪雞神社を庇護し、また田辺城下町の町衆からも深い信仰を集め、神社は再興されることとなります。

【Ⅳ 名所としての鬪雞神社】

『西国三十三所名所図会』や大阪商船による、南紀地方を宣伝するパンフレットなどに鬪雞神社が掲載されました。

このように鬪雞神社は、信仰の地としてだけでなく、名所、歴史伝承の地として認識されるようになります。



【Ⅴ 田辺祭】



田辺祭は、毎年7月24・25日の両日に行われる鬪雞神社の例大祭です。

慶長5年(1600)、田辺領主の浅野左衛門佐は、新熊野権現と祭礼の再興を図ります。元和5年、安藤直次が田辺領主となると、城下町の整備とともに、田辺祭が盛大に執り行われるようになります。

○展示解説○

2月4日(土)、3月18日(土)に企画展の展示解説を行いました。



平成二八年度企画展

闘雞神社の文化財

平成二九年

一月二八日～三月二六日

田辺市立田辺歴史民俗資料館

(田辺文化交流センター二階)

闘雞神社の文化財

闘雞神社は、中辺路と大辺路が分岐する田辺市街地の東に位置しています。江戸時代には新熊野闘雞権現社といわれ、現在も権現さんの称で親しまれています。『紀伊続風土記』には熊野別当18代湛快のとき、熊野三所権現を勧請したと記され、闘雞神社の社名は、源平合戦の際に第21代熊野別当湛増が、紅白二色の鶏を神前で七番闘わせて神意を占い、すべて白色の鶏が勝利したことから源氏に味方することを決意したとする『平家物語』の故事に由来します。

平成23年度からの学術調査で、闘雞神社の実態解明が進み、平成27年10月7日に国の史跡熊野参詣道大辺路及び名勝南方曼陀羅の風景地 闘雞神社として指定され、平成28年10月24日には世界遺産『紀伊山地の霊場と参詣道』に追加登録されました。

この企画展では、調査で明らかになってきた現在の闘雞神社の実態を、所有する文化財や古文書、考古資料などをもとに紹介します。

【主な展示資料】

神田遺跡・田辺城下町遺跡（下屋敷町周辺）出土品
獅子・狛犬、新熊野十二所権現勧進帖（明応5年）、
田辺領主安藤次猷奉納絵馬
各社殿棟札、神額、田所家文書
闘雞神社絵葉書、南紀州名所（吉田初三郎）
田辺祭絵巻（期間中に巻き取りを行います）



獅子・狛犬（闘雞神社）

【会 期】 平成29年1月28日（土）
～3月26日（日）

【開館時間】 午前9時30分～午後5時

【休 館 日】 月曜日（3月20日は開館）
2月13日～23日、3月21・23日

歴民講座 3月12日（日）午後1時30分から たなべる2階大会議室
「闘雞神社の歴史と文化財」（仮題） 長澤好晃（闘雞神社宮司）

展示解説 2月4日、3月18日 いずれも午後1時30分から
担当職員による展示解説を行います。